

基礎研 レター

図表でみる世界の民主主義

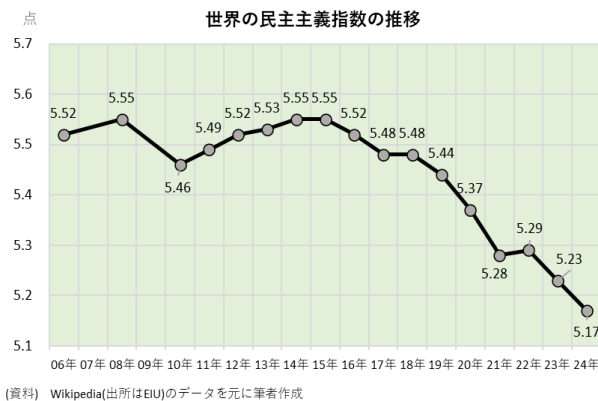
日本の民主主義指数は上昇も、世界平均は低下。世界ではいったい何が起きているのか？

客員研究員 三尾 幸吉郎

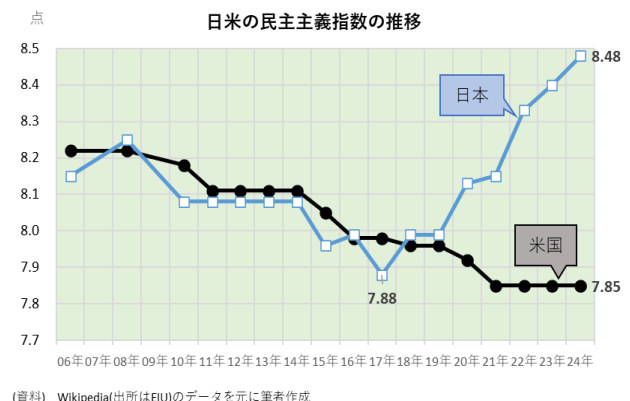
1——日本の民主主義指数は上昇も、世界平均は低下

民主主義の起源は、古代ギリシャの「直接民主制」にあるとされる。その後、民主主義は衰退し、中世の封建制度や絶対王政の時代を迎えたが、17～18世紀に市民革命（フランス革命など）を経て復活することとなった。また帝国主義時代（19世紀後半～20世紀前半）には、本国は民主主義も植民地は専制という矛盾に直面、世界恐慌（1929年）後にはファシズム台頭で危機に直面したものの、それら乗り越え、国民主権、自由選挙、多数決原理・少数意見尊重、三権分立、言論・信教の自由、法の下での平等などを特徴とする、民主主義が形成されてきた。しかし、エコノミスト・インテリジェンス・ユニット研究所（EIU）の民主主義指数¹の推移を見ると（図表-1）、10年ほど前からじわじわと低下してきており、世界の民主主義はまたしても危機に直面したようだ。それは民主主義の盟主とされる米国も例外ではない。但し、日本は例外であり民主主義指数が上昇を続けている（図表-2）。

図表-1



図表-2



¹ EIUによれば、この指数は60の指標を「選挙過程と多元性」、「政府機能」、「政治参加」、「政治文化」、「人権擁護」の5つの部門に分類し、それに基づいたスコアの平均から計算されており、満点は10点。但しあくまでEIUの価値観に基づく評価であることに留意が必要。

2—世界各国・地域の民主主義指数

それでは各国・地域の現状（2024年）を確認してみよう。まず地域別に見ると（図表-3）、西欧と北米では世界平均（5.17点）を大きく上回る一方、サブサハラと中近東ではそれを大きく下回り、中南米・中東欧・アジア南太平洋はほぼ世界平均並みである。なお、20年近く前の2006年と比べると、いずれの地域でもやや後退している。

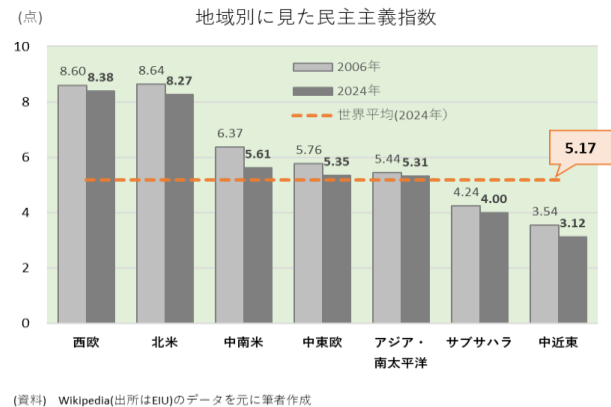
次にランキング表を見ると（図表-4）、1位はノルウェー、2位はニュージーランド、3位はスウェーデンである。下位に目を転じると、最下位はアフガニスタン、下から2番目はミャンマー、下から3番目は北朝鮮となっている。

世界のリーダー的存在である主要先進国（G7）に焦点を当てると、高い方からドイツ、カナダ、日本、英国、フランス、米国、イタリアの順となっており、いずれも世界平均を大幅に上回る民主的な国々であることが分かる。但し、2006年と比べると、ドイツ、カナダ、フランス、米国、イタリアはやや後退しており、深化したのは英国と日本だけにとどまる。

一方、ここもと世界で存在感を高めた主要途上国（BRICS）に注目すると、インド、南アフリカ、ブラジルが世界平均を上回っている一方、中国、ロシアは大きく下回っており、BRICSの民主主義は大きく二極化した状況と言えるだろう。なお、BRICSには2024年にイラン、エジプト、アラブ首長国連邦（UAE）、エチオピアが、2025年にはインドネシアが加盟して「BRICS プラス」と称されるようになった。これら新規加盟国の民主主義指数を見ると、イラン、エジプト、UAE、エチオピアのように独裁的な国が多いものの、インドネシアのように民主的な国も含まれている。したがってBRICS プラスは民主主義 vs 独裁主義という対立軸とは異なる価値観で結びついた集団と言えるだろう。なお、2006年と比べると、UAE とインドネシアでは小幅ながら指数が上昇したものの、その他の国々では民主主義が後退、特にロシアでは5.02点から2.03点へと大きく後退した。なお、中国は「全過程人民民主主義²」と称する民主主義を採用、EIUの評価とは馴染まない面がある。

最後に、日本と関係が深い近隣アジアの状況を確認しておこう。台湾、韓国、マレーシア、東ティモール、フィリピン、モンゴル、インドネシア、タイ、シンガポールは世界平均を上回る。特に台湾は2006年の7.82点から8.78点へと大幅に民主主義指数が上昇し、日本を含むG7のどこより高い水準となった。一方、カンボジア、ベトナム、中国、ラオス、北朝鮮、ミャンマーは大きく下回る。近隣アジアは大きく二極化した状況にあると言えるだろう。なお、2006年と比べると、マレーシア、東ティモール、タイ、シンガポール、フィリピン、インドネシア、北朝鮮では指数が上昇したものの、中国、韓国、モンゴル、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーでは低下した。なお、中国本土の特別行政区である香港は2020年に国家安全維持法が施行されたことなどから大幅低下している。

図表-3



² 全過程人民民主主義に関しては、三尾幸吉郎（2024年）『図解中国が変えた世界ハンドブック』白桃書房を参照ください

図表-4 民主主義指数ランキング

【ランキング1~85位】

2006年	
1	スウェーデン 9.88
2	アイスランド 9.71
3	オランダ 9.66
4	ノルウェー 9.55
5	デンマーク 9.52
6	フィンランド 9.25
7	ルクセンブルク 9.10
8	オーストラリア 9.09
9	カナダ 9.07
10	スイス 9.02
11	アイスランド 9.01
12	ニュージーランド 9.01
13	ドイツ 8.82
14	オーストリア 8.69
15	マルタ 8.39
16	スペイン 8.34
17	米国 8.22
18	チェコ 8.17
19	ポルトガル 8.16
20	ベルギー 8.15
21	日本 8.15
22	ギリシャ 8.13
23	英国 8.08
24	フランス 8.07
25	コスタリカ 8.04
26	モリシャス 8.04
27	スロベニア 7.96
28	ウルグアイ 7.96
29	南アフリカ共和国 7.91
30	チリ 7.89
31	韓国 7.88
32	台湾 7.82
33	エストニア 7.74
34	イタリア 7.73
35	インド 7.68
36	キプロス 7.60
37	ボツワナ 7.60
38	ハンガリー 7.53
39	リトアニア 7.43
40	カーボベルデ 7.43
41	スロバキア 7.40
42	ブラジル 7.38
43	ラトビア 7.37
44	パナマ 7.35
45	ジャマイカ 7.34
46	ポーランド 7.30
47	イスラエル 7.28
48	トリニダード・トバゴ 7.18
49	ブルガリア 7.10
50	ルーマニア 7.06
51	クロアチア 7.04
52	ウクライナ 6.94
53	モンゴル 6.67
54	アルゼンチン 6.63
55	セルビア 6.62
56	モンゴル 6.60
57	スリランカ 6.58
58	モンテネグロ 6.57
59	バブアニューギニア 6.54
60	ナミビア 6.54
61	スリナム 6.52
62	モルドバ 6.50
63	フィリピン 6.48
64	レソト 6.48
65	インドネシア 6.41
66	東ティモール 6.41
67	コロンビア 6.40
68	北マケドニア 6.33
69	ホンジュラス 6.25
70	エルサルバドル 6.22
71	パラグアイ 6.16
72	ベナン 6.16
73	ガイアナ 6.15
74	ドミニカ共和国 6.13
75	ペルー 6.11
76	バングラデシュ 6.11
77	グアテマラ 6.07
78	香港 6.03
79	パレスチナ 6.01
80	マリ 5.99
81	ボリビア 5.98
82	アルメニア 5.98
83	アルバニア 5.91
84	シンガポール 5.89

2024年	
ノルウェー	9.81
ニュージーランド	9.61
スウェーデン	9.39
アイスランド	9.38
スイス	9.32
フィンランド	9.30
デンマーク	9.28
アイスランド	9.19
オランダ	9.00
ルクセンブルク	8.88
オーストラリア	8.85
台湾	8.78
ドイツ	8.73
カナダ	8.69
ウルグアイ	8.67
日本	8.48
英国	8.34
コスタリカ	8.29
オーストリア	8.28
モリシャス	8.23
スペイン	8.13
エストニア	8.13
ポルトガル	8.08
チェコ	8.08
ギリシャ	8.07
フランス	7.99
マルタ	7.93
米国	7.85
チリ	7.83
スロベニア	7.82
イスラエル	7.80
韓国	7.75
ラトビア	7.66
ベルギー	7.64
ボツワナ	7.63
リトアニア	7.59
イタリア	7.58
カーボベルデ	7.58
ポーランド	7.40
キプロス	7.38
インド	7.29
スロバキア	7.21
南アフリカ共和国	7.16
マレーシア	7.11
トリニダード・トバゴ	7.09
東ティモール	7.03
パナマ	6.84
スリナム	6.79
ジャマイカ	6.74
モンテネグロ	6.73
フィリピン	6.63
ドミニカ共和国	6.62
モンゴル	6.53
ハンガリー	6.51
アルゼンチン	6.51
クロアチア	6.50
ブラジル	6.49
ナミビア	6.48
インドネシア	6.44
コロンビア	6.35
ブルガリア	6.34
北マケドニア	6.28
タイ	6.27
セルビア	6.26
ガーナ	6.24
アルバニア	6.20
スリランカ	6.19
シンガポール	6.18
ガイアナ	6.11
レソト	6.06
モルドバ	6.04
ルーマニア	5.99
バブアニューギニア	5.97
セネガル	5.93
パラグアイ	5.92
マラウイ	5.85
ザンビア	5.73
ペルー	5.69
ブータン	5.65
リベリア	5.57
フィジー	5.39
アルメニア	5.35
マダガスカル	5.33
メキシコ	5.32

【ランキング86~167位】

2006年	
85	レバノン 5.82
86	マダガスカル 5.82
87	ボスニア・ヘルツェゴ 5.78
88	トルコ 5.70
89	ニカラグア 5.68
90	タイ 5.67
91	フィジー 5.66
92	エクアドル 5.64
93	ベネズエラ 5.42
94	セネガル 5.37
95	ガーナ 5.35
96	モザンビーク 5.28
97	ザンビア 5.25
98	リベリア 5.22
99	タンザニア 5.18
100	ウガンダ 5.14
101	ケニア 5.08
102	ロシア 5.02
103	マラウイ 4.97
104	ジョージア 4.90
105	カンボジア 4.77
106	エチオピア 4.72
107	ブルンジ 4.51
108	ガンビア 4.39
109	ハイチ 4.19
110	アルメニア 4.15
111	キルギス 4.08
112	イラク 4.01
113	パキスタン 3.92
114	ヨルダン 3.92
115	エジプト 3.90
116	モロッコ 3.90
117	コモロ 3.90
118	ルワンダ 3.82
119	ブルキナファソ 3.72
120	カザフスタン 3.62
121	シエラレオネ 3.57
122	ニジェール 3.54
123	バーレーン 3.53
124	キューバ 3.52
125	ナイジェリア 3.52
126	ネパール 3.42
127	コートジボワール 3.38
128	ベラルーシ 3.34
129	アゼルバイジャン 3.31
130	カメルーン 3.27
131	コンゴ共和国 3.19
132	アルジェリア 3.17
133	モリタニア 3.12
134	クウェート 3.09
135	アフガニスタン 3.06
136	チュニジア 3.06
137	イエメン 2.98
138	中国 2.97
139	イラン 2.93
140	エスワティニ 2.93
141	スーダン 2.90
142	カタール 2.78
143	オマーン 2.77
144	コンゴ民主共和国 2.76
145	ベトナム 2.75
146	ガボン 2.72
147	ブータン 2.62
148	ジンバブエ 2.62
149	タジキスタン 2.45
150	アラブ首長国連邦 2.42
151	アンゴラ 2.41
152	ジブチ 2.37
153	シリア 2.36
154	エリトリア 2.31
155	ラオス 2.10
156	赤道ギニア 2.09
157	ギニア 2.02
158	ギニアビサウ 2.00
159	サウジアラビア 1.92
160	ウズベキスタン 1.85
161	リビア 1.84
162	トルクメニスタン 1.83
163	ミャンマー 1.77
164	トーゴ 1.75
165	チャド 1.65
166	中央アフリカ 1.61
167	北朝鮮 1.03

2024年	
エクアドル	5.24
タンザニア	5.20
香港	5.09
ボスニア・ヘルツェゴ	5.06
ケニア	5.05
ホンジュラス	4.98
モロッコ	4.97
ウクライナ	4.90
チュニジア	4.71
ジョージア	4.70
エルサルバドル	4.61
ネパール	4.60
グアテマラ	4.55
ウガンダ	4.49
ガンビア	4.47
バングラデシュ	4.44
ベナン	4.44
シエラレオネ	4.32
トルコ	4.26
ボリビア	4.26
コートジボワール	4.22
ナイジェリア	4.16
アンゴラ	4.05
モリタニア	3.96
レバノン	3.56
アルジェリア	3.55
キルギス	3.52
パレスチナ	3.44
モザンビーク	3.38
ルワンダ	3.34
ヨルダン	3.28
エチオピア	3.24
カタール	3.17
カザフスタン	3.08
アラブ首長国連邦	3.07
オマーン	3.05
トーゴ	2.99
ジンバブエ	2.98
カンボジア	2.94
パキスタン	2.84
コモロ	2.84
アゼルバイジャン	2.80
イラク	2.80
エジプト	2.79
コンゴ共和国	2.79
クウェート	2.78
ハイチ	2.74
ジブチ	2.70
ベトナム	2.62
エスワティニ	2.60
キューバ	2.58
カメルーン	2.56
ブルキナファソ	2.55
バーレーン	2.45
マリ	2.40
リビア	2.31
ニジェール	2.26
ベネズエラ	2.25
ガボン	2.18
ブルンジ	2.13
中国	2.11
ウズベキスタン	2.10
ニカラグア	2.09
サウジアラビア	2.08
ギニア	2.04
ロシア	2.03
ギニアビサウ	2.03
ベラルーシ	1.99
エリトリア	1.97
イラン	1.96
イエメン	1.95
コンゴ民主共和国	1.92
赤道ギニア	1.92
チャド	1.89
タジキスタン	1.83
ラオス	1.71
トルクメニスタン	1.66
スーダン	1.46
シリア	1.32
中央アフリカ	1.18
北朝鮮	1.08
ミャンマー	0.96
アフガニスタン	0.25

(資料) Wikipedia(出所はEIU)のデータを元に筆者作成

3—おわりに

このように世界の民主主義を概観すると、深化を続ける国・地域が少なくないものの、後退する国・地域の方が遥かに多いことが分かる。こうした状況の背景にはいったい何があるだろうか。

ここで民主主義の利点と欠点を整理しておこう(図表-5)。まず民主主義には周知のとおり多くの利点がある。例えば、悪政を行なった政権を、定期的に実施される選挙を通じて市民が平和的に

交代させることができる。三権分立や言論・メディアの自由を保つことで権力濫用や腐敗を抑制することができる。さまざまな市民の意見を取り入れることで政策決定の質的向上、社会的平等の促進、基本的人権の尊重が期待できるなどである。

一方、民主主義には欠点もある。例えば、民主主義では多数決が基本となるため、少数派の意見や人権が軽視される恐れがある。逆に少数派の意見を尊重しようとするれば政策決定が遅延しがちとなる。またともすればポピュリズムが台頭し耳障りがいい政策ばかりを打ち出し、痛みを伴う長期的重要課題を棚上げにすることが常態化しがちとなる。さらに最近では伝統的メディアに対する不満(ファクトチェックができないという理由で世間が注視する論点を報道しないなど)が広がる中で、SNSを通じたプロパガンダによる情報操作や、再生回数を増やそうとするアテンションエコノミーの隆盛でフェイク(虚偽の情報や誇張し過ぎた内容)が増えて、民主主義の基盤を揺さぶる事態となっている。

実際、現在の世界を見渡すと、民主主義の利点よりも欠点に目が向かうようになり、両者の間でどのように折り合いをつけるべきなのか、新たな均衡点を探り始めたようだ。欧州ではこれまで推進してきたグローバリズム(国民国家の枠組みを超えて世界全体の一体化を目指す活動)を批判し、単一民族・文化による「伝統的国民国家」への回帰を唱える「極右」と称される政治勢力が台頭してきたし、米国でもこれまで推進してきたDEI(多様性、公平性、包摂性)を、過剰な政治的正しさ(Political Correctness)の象徴として真正面から批判するトランプ氏が国民の支持を受けて大統領に就任した。また伝統的メディアの至らぬ点を補ってきたSNSに関しても、これまでは情報操作やフェイク蔓延に対する危惧からファクトチェック強化に取り組んできたが、最近ではファクトチェッカーの中立性に対する疑義が生じたことなどから見直しを迫られる事態となり、言論・表現の自由とのバランスを改めて考えざるを得なくなってきた。さらに政治的混乱や経済的不振で貧困から抜け出せずにいる発展途上国の中には、強権的政権による治安維持や開発独裁による経済優先を支持する意見も根強い。

かつて英国の元首相ウィンストン・チャーチルは「民主主義は最悪の政治形態だ。但し、これまで試されてきたあらゆる政治形態を除けばだが」と述べた。民主主義には多くの欠点があることを認めつつ、他のいかなる政治形態よりもマシだと評価したものと捉えられている。世界の民主主義は今、危機に直面しているが、より良い政治形態を生み出すためには必要不可欠な試練なのかもしれない。

図表-5

民主主義の利点と欠点

【利点】		【欠点】	
①	平和的な政権交代	①	多数派の専制
②	権力濫用と腐敗の抑制	②	政策決定の遅延
③	政策決定の質的な向上	③	ポピュリズムの台頭
④	社会的平等の促進	④	長期的重要課題の棚上げ
⑤	基本的人権の尊重	⑤	情報操作の恐れ

(資料) 筆者作成

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。